

令和元年度 第1回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 摘録

1. 日時:令和元年 6月 18日(火) 13時 00分～14時 30分

2. 開催場所:麻生区役所4階 第2会議室

3. 出席者

(1)委員

吉松昭彦委員長、村井委員、今村委員、植田委員、伴委員、伊藤委員、原委員、森委員、吉垣委員、大川委員、河村委員、依田委員、日暮委員、永井委員

(2)事務局

高階事務局長、若尾地域みまもり支援センター副所長、端坂地域支援課長、石原児童家庭課長、大和田高齢・障害課長、平田保護課長、肥後衛生課係長、高石危機管理担当課長、野口生涯学習支援課長、森田地域ケア推進課長、白勢地域ケア推進課係長、高橋地域ケア推進課主任、石塚地域ケア推進課職員

4. 次第

1 開会

事務局長挨拶

事務局説明

委員、事務局自己紹介

2 議事

(1)第5期麻生区地域福祉計画について

①進捗状況について

②評価について

(2)地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

○シニア層を対象とした大学連携事業について

(3)その他

○今年度の会議スケジュールについて

3 閉会

【配布資料】

会議次第

委員名簿

座席表

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

資料1 第5期麻生区地域福祉計画進捗状況

資料2-1 第5期各区地域福祉計画(平成30～32年度)の評価について

資料2-2 第5期 麻生区地域福祉計画 中間評価(平成30年度)

資料3-1 事業実施報告「地域上映支援大学」

資料3-2 事業実施報告「大人のためのはじめてのコーラス教室」

5. 公開・非公開の別 公開

6. 傍聴者 0名

7. 議事摘録

1 開会

2 議事

(1) 第5期麻生区地域福祉計画 ①進捗状況について

資料に従い、事務局 地域ケア推進課主任より説明(資料1)

吉垣委員 19番、20番のこどもの支援体制は充分整っている。今のところ行政と一緒にできている。

依田委員 ちいきのちからシートの到達目標はどういうところか。

事務局 地域包括ケアシステムを構築するために、それぞれの地域で考える機会を創出すること。

地域への展開については、強制するものではないので数値的には打ち出してはいないが、区町会連合会の総会において「ちいきのちからシート」の活用について広報しており、関心を持ってもらった地域に対し積極的に取組を進めていきたいと考えている。

村井委員 行政等が出向かなくても、やり方を学ぶ仕組みができ、最終的には全地区でやれたらいい。しかし、やった後の結果をどう使いこなすのか、これが大切なのでこれからつめたい。ここにいらっしゃる皆さまの地域でもぜひやらせてほしい。

23番 虐待相談支援体制の充実について、全国的にもゆっくり増えているような印象があるが、ここ数年での推移は。

また、15番 認知症カフェには本学の学生が出向いているが、その他の地域活動でも派遣先があればコーディネートしていきたい。

その他、45番 麻生区高齢者見守りネットワーク事業の5件の通報の内容が知りたい。

事務局 虐待の経年変化について、具体的な数字が今は出せないが、高齢者虐待防止法は施行されて10年以上が経っており、高齢者の増加、制度の周知とともに10年スパンでは2倍程度という印象である。

障害者虐待防止法は、高齢の同法に比べて遅く施行されているが、こちらも制度の周知とともに少しずつ増えているという印象である。

また、近年は警察からの通報が大変増えており、それが件数の増加に影響している。

村井委員 増えている虐待のパターンはあるか。また、高齢者見守りネットワーク事業において、通報がある状況を教えてほしい。

事務局 同居している子どもからの虐待、というのが増えている。子どもにも課題がある、複合的な問題となっている。高齢に限らない見守りが必要である。

麻生区見守りネットワーク事業の通報の内容としては、多摩生活環境事業所からの通報が例年半数以上を増えている。事業所がゴミ出しを手伝うなかで、ゴミが最近出していないが大丈夫か、と通報に繋がっている。その他は薬局や金融機関等からだった。

宅配弁当等の訪問系事業者からの通報では、訪問時に受取がなされない、ゴミが溜まっているなどの理由で通報がある。

依田委員 子どもに精神的疾患があり、世帯全体として課題があるケースが本当に多いと感じる。時代的な問題が、麻生区にもあるということがわかった。高齢者だけでなく、障害者に対する支援と連携し、ひきこもりの方の居場所づくりなどを、地域福祉を

推進するこうした場で議論する必要がある。

- 伴 委員 児童虐待において、通報したにも拘らず、虐待という判断がなされず、残念な事件に繋がるということが他県でおきている。麻生区では起きないでほしいが、虐待として判断されないのはどういう場合で、虐待を発生させないための取組状況は。
- 事務局 児童虐待の支援は、区役所では地域支援課が行い、専門的な支援は麻生区であれば北部児童相談所が行っている。虐待の判断と支援方針の決定は、専門機関である児童相談所が行っている。
- 虐待といっても、日常的な支援でやっていけるという程度から、専門支援を濃厚に行わなければ厳しいという程度まで、幅がある。児童相談所と区役所、地域の民生委員さん、主任児童委員さん、保育園等と連携して見守り支援を行っており、そのやり方は以前から変わっていない。しかし今、国の方針として、児童相談所に人を増やすことで、拡充・強化しようとしており、市でも職員を増やしている。事件の起こった自治体等の支援が不足だったとは、必ずしも思えず、それぞれができるところを目いっぱいやっても、確認やサポートができなかった現状があったのではないかと思う。
- ただ、できる限り連携をとり、地域の母親、子ども達を守っていかなければならない。そのためには人が必要であること、また区と児童相談所の連携を強化する必要があり、その体制について検討している、というのが現状である。

(1)第5期麻生区地域福祉計画 ②評価について

資料に従い、事務局 地域ケア推進課主任より説明(資料2-1、資料2-2)

- 依田委員 市の計画と区の計画の関係性はどう変わったのか。また、総評について、もう少し具体的な書き方にはならないか。
- 事務局 関係性は変わらないが、第4期計画までは、評価について、市の会議では市の計画についてのみ行っており、区計画は本会議にて振り返りを行うにとどまっていた。第5期からは、区の計画も様式に示し、市の会議にて一括して評価することとなった。
- 総評については、委員の皆さまにご意見をいただいたものを併せて記載し、市に提出する。深まった内容のものにするため、ご意見をお願いしたい。
- 永井委員 評価は単年度ごとに行うのか。
- また、評価について、それぞれの具体的な目標が予めあったのだろうが、この様式からは見え難いので、目標の記載があるとよかった。
- 事務局 計画の評価は、年度ごとに行うので、今回は平成30年度、1年間のものである。
- 目標については、大きな枠組みとなるが、地域福祉計画の基本目標で取り上げている内容について、目標をほぼ達成しているという評価とした。
- 市の地域福祉計画は、川崎市総合計画という具体的な数値が出ている別の計画に基づいているので、総合計画の評価の情報を活用している。区では具体的な数値目標はないが、基本目標をもとに、評価をした。
- 村井委員 最終的に PDCA サイクルを回さなければいけないので、A(改善)をどう取り扱うのが難しい。この様式に、改善の余地を記載し、次年度議論を深めていく、とするのか。本様式は C(評価)までのものになっている。A(改善)について、もう少し様

式の中に入ってもいいと思う。

他の自治体の福祉計画にも関わる中で、全体のバランスとして評価を「目標をほぼ達成」とせざるを得ない行政の実態というのがあると思う。しかし、中には「目標を大きく上回って達成」という事業が出てくる場合もある。それに対し、他の事業に力を入れたほうがいい、とするのではなく、麻生区の強みとして伸ばしていけるようになるといい。

今村委員 1年間やってきた結果として、このまま継続していくのか、軌道修正するのか、そういう点が記載されているといい。麻生区の特徴が出ると思う。麻生区でうまくいったものをアピールしてもいいと思う。

例えば中原区では、ペットボトルにホームページから様式をダウンロードし、災害時の情報を入れる、という取組をしている。

吉松委員 その取組については、麻生区で継続していないのか。

森委員 麻生区の民生委員協議会が、訪問し、医療情報を入れた災害キットを配布するという取組を6年前に始めた。情報は更新することが必要であるが、継続して訪問することが難しいため、民生委員としては今年度で事業は終了となる。

敬老祝いの代わりに、各自治会でやっているところもある。

今村委員 訪問は難しいと思う。中原区では自分でダウンロードでき、継続しやすい形でやっていた。それが麻生区ですぐできるかは別問題だが、他区のいい取り組みが麻生区に、逆に麻生区のいい取り組みが他区に伝わればいいと思う。

(2) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

事務局 地域ケア推進担当職員より、シニア層を対象とした大学連携事業について、資料に基づき説明(資料3-1、資料3-2)

村井委員 映画大学の映画作りについて、こうなったらいいなという思いがある。横浜市緑区の地域福祉計画プロモーションビデオ「みどりのわ」がYouTubeにあるので、お見せしたい。《 一 視 聴 一 》

この中では、様々な地域の活動が、住民へのインタビューとともに紹介されている。日本映画大学の学生さんの力を借りながら、住民の協力を得て、ひとつの地域福祉計画をプロモーションしながら、地域活動をPRするような、一体感のあるものが作れたらいいなと思う。

森委員 映画大学が立ち上げた市民団体が、3月にサロンで上映会を実施し、市民の方も多く集まり、大変喜ばれた。映画館で上映されていたニュース映像を、麻生区版に編集したものを上映した。

古い映像が流れて、懐かしいという声が多かった。終了後も、交流や映画大卒業生の映画の上映もあり、濃い内容だった。皆さまの地域でもやられてみては。

(3) その他

事務局 今年度の会議スケジュールについて連絡

3 閉会 14時30分閉会